

令和3年2月25日

安芸市福祉事務所
所長 山崎美佳 様

安芸市立土居保育所
所長 前田美智



令和2年度土居保育所園評価最終報告書

1 保育所における自己評価の記録

月	自己評価
4	<ul style="list-style-type: none">○ 園経営計画（3年程度）の作成○ 本年度の重点目標の設定（評価計画）○ 園評価項目・指標の設定○ 職員への園経営計画・園評価計画の説明と共通理解
7	<ul style="list-style-type: none">○ 保護者への園評価の説明
8	<ul style="list-style-type: none">○ 中間評価の実施（職員の自己評価、園の自己評価）
9	<ul style="list-style-type: none">○ 設置者への中間評価の報告、改善策の検討
11	<ul style="list-style-type: none">○ 保護者へのアンケートの実施
1	<ul style="list-style-type: none">○ アンケートの集計・分析○ 保育・教育活動と運営の振り返り
2	<ul style="list-style-type: none">○ 最終評価の実施（職員の自己評価、園の自己評価）○ 保護者へのアンケート結果の報告と設置者への報告○ 設置者への最終評価の報告、改善策の検討

2 評価結果

総括的な自己評価について

<成果>

① 保育・教育活動の充実

体を十分に使って遊ぶことを意識し、保育者も一緒に遊びながら、楽しさを共有したり伝えたりしてきた。室内や戸外、園外保育などで体を使って遊ぶことが好きになり、子どもたちの身体作りにつながっている。

一人一人を大切にし、子どもの特性や発達を捉え、子ども理解や援助をすることで、自分の気持ちを表現し、友だちの思いにも気づく子どもが増えてきている。

② 職員の育成・資質向上や運営

園務分掌の内容を理解し、自分の役割を自覚し参画するようになってきている。研

修に参加し自己研鑽、資質向上に努めるとともに、学びの共有に努めてきた。

冬期の職員研修では、高知大学の是永かな子先生に、事前に自園の園児の様子を見に来ていただき、実際にアドバイスを受けることが出来て良かった。また、研修に参加することで、支援の必要な子どもの理解につながり、その後の保育・支援に活かすことが出来た。

③地域に開かれた園づくり

登降所時に保護者と日々の子どもの姿を伝え合ったり、保護者の思いや、相談を聞く場を持ち、必要に応じて他の機関につなげるなどの支援を行った。

保護者アンケートに取り組むことにより、保護者の思いや願いを知ることが出来た。頂いた意見を参考にし、今後の保育に活かしていきたい。

保護者や地域の方に、野菜や果物の収穫をさせていただき交流を持つことが出来、2月からは、地域の方による絵本の読み聞かせを再開することが出来た。今後も地域との関りを大切にし、連携した子育てを行っていきたい。

<課題及び主な改善策>

子ども達の健康・安全に留意しながら、成長発達に寄り添った保育をしていくためにも、資質向上に努め、計画・実践・振り返り・改善を行いながら、職員一人一人が自分のこととして考え、共通理解や解決に向かえるような職員集団作りを更に進めていく。

園務分掌については、内容を理解し、園の運営について意識を持つようにはなっているが、園務を分担することの工夫が必要である。

コロナ禍のため、行事の縮小や様々な制限の中、保護者の交流の場や、子育てに関する学びの場の設定ができなかった。今後の状況を見ながら、場の設定を考えていきたい。

今年度の取り組みや成果、保護者アンケートの結果を参考にし、次年度は、新たな分野の取り組みも行っていきたい。重点目標や評価項目においては、職員との共通理解に努め、今後の保育に活かし、よりよい保育所となっていけるよう園全体で連携した取り組みを行っていく。

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	豊かな心と丈夫な体の育成	〔指導内容・方法〕 十分に体を使って遊ぶ	4 保育者も一緒に遊びながら楽しさを共有したり伝えたりする 3 子どもが自ら関わられるような環境の工夫をする 2 体を使った遊びを年齢や季節を考慮しながら計画的に取り組む 1 体を使った遊びを意識して取り入れる	3.3	4 室内や戸外で体を使った遊びをしようとする子ども 90%以上 3 75%以上 2 50%以上 1 50%未満	3.2	遊びを通して子どもたちの身体作りが出来てきているが、遊びへの誘い方、言葉がけの仕方、遊びの工夫などを引き続き考慮していく。
	乳幼児の発達に即した生活や遊びの充実	〔援助〕 一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う	4 その子どもと周りの子どもとの関係を意識しながら集団で一人一人をいかした援助をする 3 一人一人の特性や発達を捉え、その子らしさを大切に援助をする 2 反省・評価や記録の整理を通して、子ども理解を深める 1 明るい笑顔で子どもを迎え、一人一人とコミュニケーションをとる	3	4 半数以上の子どもが、友達の良さに気付いたり受け止めたりしながら自分の気持ちを表現するようになった 3 半数以上の子どもが、友達の良さに気付くようになった 2 半数以上の子どもが、自分らしさを発揮するようになった 1 半数以上の子どもが、自分の遊びを見つけて楽しむようになった	3	個々を大切にするとともに、一人一人の存在が集団の中で十分に受け止められるような仲間づくりを今後も行っていく。自分らしさを発揮して生活や遊びを楽しむ子どもが増えている。
◆職員の育成・資質向上や運営	園務分掌の役割への職員の積極的な取組と連携	〔園務分掌〕 園務分掌の内容を理解し、企画・立案する	4 担当の業務を責任をもって遂行するとともに新たなアイデアをもって改善や提言する 3 担当の業務を責任をもって企画・立案・遂行する 2 担当した業務について振り返り、改善したり、職員会等で報告したりする 1 担当した業務について理解し遂行する	2.6	4 園運営上の課題解決に向け、園務分掌の取組みに参画するようになった 3 園の運営について自分のこととして常に考え、職員会等で建設的な発言ができるようになった 2 担当した業務について振り返り、改善したり、職員会等で報告したりする 1 自分の役割を自覚できるようになった	2.4	確認の時間が十分に取れなかったこともあったが、立案や相談、見直し、職員会での報告、発言など、各自が自分の役割を自覚し、参画するようになってきた。
	職員一人一人が研修を通じて自己研鑽し、喜びや意欲をもって保育にあたる	〔研修〕 職員間で研修内容を共有し、主体的に取り組む	4 月1回以上 3 月1回程度 2 2ヶ月に1回程度 1 3ヶ月に1回程度	2.5	4 研修内容を話し合い、保育の実践にいかした 75%以上 3 65%以上 2 50%以上 1 50%未満	3	研修の報告、資料の閲覧などを行なうことで、学びの共有に努めた。園内研修を行い、自己研鑽や、保育の実践に活かすことが出来た。
◎地域に開かれた園づくり	保育の意図や子ども理解を保護者と共有・共感をする	〔情報提供〕 園だよりやクラス便りの発行、主として保護者を対象とした情報提供	4 週1回以上 3 2週間に1回程度 2 3週間に1回程度 1 月に1回以上	2.6	4 (3に加え)より保護者が見やすいような紙面環境がなされる 3 (2に加え)子どもの活動内容に発達の視点や意図が加えられている 2 (1に加え)子どもの活動を伝える内容がある 1 お便りの内容がお知らせや予定だけである	2.4	子どもの姿と発達をてらし合わせ、保護者に保育所での様子を伝え、子どもの成長の喜びを共有・共感して喜ぶ。読みたくなる紙面の工夫や、子育ての情報の提供に努めた。保育のねらいや、発達の視点をいれるなど更に工夫していく必要がある。
	保護者に信頼される保育所	〔保護者への支援〕 保護者に対して子育てを支援する	4 活動を工夫しながら、保護者同士のつながりが持てるようになる 3 保護者が無意識にしていることの中に、子どもへのよりよい関わり方があることを知らせる 2 一人一人の子どもやクラスの遊び、友達との関わり、生活の様子を把握し、保護者に知らせる 1 保護者に進んで挨拶したり話しかけたりして、話しやすい雰囲気づくりに努めている	2.5	4 保護者が子育ての中で感じる喜びや不安、悩みをよく話してくれる 70%以上 3 65%以上 2 50%以上 1 50%未満	2.8	登降所時には、一人一人の子どもやクラスの遊び、友達との関わり、生活の様子を保護者に知らせ、コミュニケーションを図るようにした。保護者の悩みを聞き共に考えたり、アドバイスを行うなどの支援を行ってきた。コロナ禍であり、保護者同士のつながりが持てるような交流の場が少なかった。